

「最近の巻き爪治療」

足の爪の変形の代表的なものが、巻き爪や陥入爪^{かんにゅうそう}です。巻き爪はその名のとおり、爪が横方向に巻いている状態を指し、陥入爪^{かんにゅうそう}は爪の角がトゲのように軟部組織(肉)に食い込んで痛みを伴います。陥入爪^{かんにゅうそう}の人は巻き爪になっていることが多く、爪の角を切ると一時的に痛みはなくなりますが、爪がのびてくるとさらに巻き込み、より重症の巻き爪になります。巻き爪、陥入爪^{かんにゅうそう}の原因は先の細い靴、深爪、^{あしゆび}趾の傷などです。たとえば深爪をすると爪の先端が軟部組織に刺さるので、爪が伸びにくくなります。一方爪は爪の根本の部分で次々と作られて行きますので、前方に向かって伸びにくくなり、爪が厚くなってしまい、陥入爪^{かんにゅうそう}はさらに悪化します。

これまで巻き爪や陥入爪^{かんにゅうそう}の治療法は、初期であれば爪の縁の角に綿を詰めるコットンパッキングという方法が、一般的に行われており、またかなりの確率で治すことができました。しかし重症の場合には応用できません。以前は重症化してしまうと、手術で爪の根本の爪母^{そうぼ}という爪を作り出す部分の外側及び外側の爪を切除して、爪の横幅を狭くする方法が行われていました。この方法で一時的に完治しても、年数が経過すると再び爪が巻いてくる可能性があります。また手術後、2～3日間はかなり痛みます。

しかし最近^{けいじょうきおくごうきん}は形状記憶合金のワイアーを使う方法がしばしば行われています。このワイアーは弾性が強く、曲げても直ぐにもとに戻るといった性質があり、この特性を利用して、曲がった爪の両脇に2カ所の穴を開け、ここにワイアーを通して固定すると、ワイアーがもとの直線にゆっくりと戻ろうとするので、爪もしだいにまっすぐになって行きます。爪の形状が改善すれば、治療は終了ですが、ワイアーを抜いたあと、再発することもあります。その時は再度ワイアーを入れると初回よりもやや早めに治って行きます。またこの治療では痛みはほとんどありません。